

金沢

古地図めぐり

東山・長町・石引エリア



金沢

古地図めぐり

東山・長町・石引エリア



寺内町から城下町へ

天文十五(五四六)年、大坂本願寺の末寺として「金沢御堂」が建てられ、寺内町として町並みが発達した。しかし、天正八(五八〇)年織田信長の武将柴田勝家の配下にあった佐久間盛政によって攻略され、盛政が金沢御堂の地に金沢城を築いたことから、金沢は寺内町から城下町へと変化した。

織田信長没後の天正十二(五八三)年、羽柴秀吉は柴田勝家と近江で対決し、盛政も伯父である勝家軍の指揮官として出陣したが、駿ヶ岳の合戦で敗れ京都六条河原で処刑された。秀吉は北陸制圧に功績のあった前田利家に金沢城を与えた。同年四月、利家は能登の七尾から金沢城に移った。

このち、明治二(八六九)年に至るまでの二八年間、金沢城は前田氏の居城となり、金沢は「加賀百万石」の城下町として整備された。なお、前田利家は従来の金沢の地名を「尾山」と自称した。利家没後、利長は再び金沢とし、以後長く使われているが、尾山も根強く使用されてきた。

前田利家は天正十四(五八六)から十五(五八七)年に本丸に天

守を築き、文禄元(五九二)年、嫡子利長に命じ、本丸周間に高石垣を築かせた。また、城内の一の丸・三の丸・西の丸・北の丸などの整備に伴い、重臣の屋敷を配置した。慶長五(六〇〇)年、関ヶ原合戦の際、二代利長は徳川方につき、加賀・能登・越中の三ヵ国の領主となた。その結果、家臣団も急増したことから屋敷割を進め、城下町の整備を急いだ。城の周りにあつた村落(石浦七ヶ村)はより遠い地へ代替地を与えて移転させ、武家地や拝領地を設け、城下町へと姿を変えていった。

城下町の拡大

城下町金沢を南北に貫く北国往還、金沢城の東にまろぐ伸びる幅五間の石引道などは十六世紀末まで利家時代に整備されていたが、利家の死後、慶長四(五九九)年から慶長十五(六〇〇)年までに、金沢城の東と西に惣構が二重に巡らされ防備体制が整った。大坂の陣が終わり徳川幕府の覇権が固まるとい、一二〇万石の巨大な名の城下町整備はさらに進展した。まず「国」城令で領内諸城が廃城となると、前田家の有力家臣が金沢に移住し、武家の菩提寺も町人も急増した。元和二(六一六)年に金沢の外港宮腰(現・金沢市金

石)に続く宮腰往還を直線に付け替え、犀川南部の寺町台地や浅野川北部の卯辰山麓に寺院群を作り始めたのは、そうした動向に連動したものである。武士人口の増加に伴い北国往還・石引道・宮腰往還など主要道に沿つて町人人口が増え、居住地が整備された。惣構の内側に重臣層・中堅藩士を配置、惣構の外側には足軽組地や寺院群が配置された。前田家は犀川南部の野田山に歴代藩主とその一族の墓所を営んだが、のちに家臣団や町人まで野田山に墓地を置いた。前田家墓所への参詣道が寺町台に整備されると、十七世紀半ばまで順次、城下の諸寺院が寺町台に移転され寺町寺院群が形成された。また小立野台の石引道周辺に藩主菩提寺である宝円寺・天徳院・如来寺などが配置され小立野寺院群と呼ばれる。卯辰山麓の寺院群とともに金沢の三寺院群と呼ばれる。城下町の縁辺に三つも寺院群が形成され、一〇〇以上の寺院が集住するは巨大城下町金沢ならではの特色であった。この三寺院群の中に浄土真宗(同宗)寺院はごく希で少ない。郡村部から城下町に移住させられた浄土真宗寺院の多くは寺院群に置かず、城下町の中に広く散在させたが、それは戦国期この地で隆盛を究めた一向揆の歴史を警戒しての処置といわれる。

金沢で寛永八(六三三)年と十二(六三五)年に大火がおきたが、この災害を機に町人地を惣構の外側や主要往還沿いに移転させ、惣構内部の武家地拡大につなげた。他方で三代利常が寛永十六(六三九)年に小松に隠居したとき、一二〇万石の藩領が四つに分割され加賀藩のほかに富山藩・大聖寺藩・利常隠居領(小松城)が分割された。城下町の武家人口が減少に転じた。しかし万治元(五六八)年の利常死後、隠居領が加賀藩に追加され一二〇万石の加賀藩が復活し、再び城下町人口も増加。それ以後の五〇年間に与力・足軽など下級武士の組地が大きく増え、寺院群も拡張され、十七世紀末には身分別に都市計画された城下町金沢が整然と完成することになった。

監修長谷川孝徳(はせがわひさと)●北陸大学未来創造学部国際教養学科長授。専攻は日本文化史(有職故実)・文化資源学。石川県立郷土資料館学芸員、石川県立歴史博物館学芸専門員を経て平成十九年四月より現職。日本古文書学会、文化財保存修復学会、文化資源学会、日本美術学会、イバント学会に所属する。

編集協力木越隆三(きこしりゅうぞう)●石川県金沢城調査研究所所長。専門は日本近世史(藩政・城下町・日本海海運)。石川県教育委員会文化財保護課、金沢大学文学部日本海文化研究室研究員、教職などを経て現職。金沢市史専門委員、地方史研究協議会委員。

古地図めぐりをする際の留意点

この古地図は、江戸末期の安政4(1857)年頃に作成されたものです。金沢は戦災や大きな自然災害に遭わなかったことから、今も藩政期の町割りが残っています。古地図めぐりを通して約150年前の金沢を感じてください。

- 後世に、幹線道路の整備や土地の細分化が行われたため、古地図とは違う箇所があります。
- 寺社、用水、坂道などは、当時のまま残っているものが多く、古地図めぐりの手がかりになります。
- 主に裏通りでは藩政期の町割りを感じることができます。

伝統的なまちなみ保全のための取組み

戦火を免れた金沢のまちなみは、全国的にもめずらしいものです。古くからのまちなみが特によく残る東山ひがし、主計町、卯辰山麓、寺町台の4地区は、重要伝統的建造物群保存地区として国の選定を受けています。

また、歴史的な特色のある地区を、金沢市独自のまちなみ保存区として保全しており、現在9区域が指定されています。

古地図めぐりをガイドします



「まいどさん」は、金沢をより深く知っていただくための活動をしている観光ボランティアガイドです。本マップを活用した観光コースのご相談にも応じますのでお気軽にお申し込みください。

●希望日の10日前までにお申込み

【予約・お問合せ先】

金沢市観光協会 ☎076-232-5555 (10時~16時 土日祝休)

●ガイド料は無料

※まいどさんの交通費、入場・入館料、昼食代等の実費はご負担ください

本パンフレットについてのお問合せ先

金沢市観光政策課 金沢市広坂1-1-1 Tel:076-220-2194



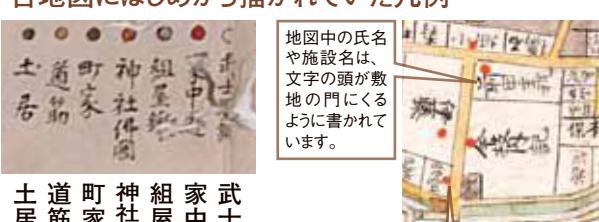
平成25年度 文化庁文化芸術振興費補助金(文化遺産を活かした地域活性化事業)
発行:金沢市 金沢市観光協会

2017年3月発行

資料提供:表紙上/金沢市 表紙下/石川県立歴史博物館所蔵 金沢城下図屏風
古地図/石川県立歴史博物館所蔵 大鋸コレクション 金沢城下絵図

【凡例】

古地図はじめから描かれていた凡例



地図中の氏名や施設名は、文字の頭が敷地の門にくるように書かれています。

氏名の横に赤丸印がある家は「人持(ひともち)」と呼ばれる身分の武家で、1000石以上の石高を有していました。

武士屋敷(ぶしやしき)
家中道(かちゅうみち)
組屋敷(ぐみやしき)
神社仏閣(じんじゃぶつ閣)
町家(まちや)
道筋(みちすじ)

現存 跡地

施設

用水・惣構跡見学ポイント

- 1 大庄用水
- 2 辰巳用水
- 3 西内惣構跡
- 4 西外惣構跡
- 5 東内惣構跡
- 6 東外惣構跡

(i)

休憩館
(観光案内所)

現存 跡地

施設

用水・惣構跡見学ポイント

- 1 大庄用水
- 2 辰巳用水
- 3 西内惣構跡
- 4 西外惣構跡
- 5 東内惣構跡
- 6 東外惣構跡

(i)

休憩館
(観光案内所)

旧城下図

0 200m



1 大野庄用水

現在の取水口は犀川桜橋の上流右岸で、河川敷を暗渠で通り新橋上流で開渠となる。長町武家屋敷周辺を経て犀川河口に注ぐ、延長約10.2kmの用水である。鬼川、御荷川とも呼ばれ、金沢城を築くときに、城下まで木材を運んだとも伝えられる。

野村家脇石碑

2 辰巳用水

寛永8(1631)年の大火の翌年、3代前田利常が金沢城内に引水するため板屋兵四郎に命じて造らせたといわれる用水で、玉川上水、箱根用水などとともに、国内有数の古い用水である。また、兼六園の曲水の主要な水源として利用されている。平成22(2010)年に、東岩取水口(上辰巳町)から兼六園までの約11kmのうち流路が変更されていない約8.7kmが国の史跡に指定された。



飛梅町地内石碑

3 西内惣構跡



慶長4(1599)年、前田家が徳川家康に謀反の疑いをかけられた際、客将高山右近に命じて掘らせたと伝えられる金沢城西側の防御ライン。惣構は堀や土塁による防御施設であり、尾山神社から尾張町を経て浅野川べりまで、約1.6kmにおよぶ。終点の浅野川口の主計町では緑水苑として当時の遺構を見ることができる。

4 西外惣構跡(一部、鞍月用水)

これまで慶長15(1610)年に篠原出羽守孝によって造られたとされてきたが、近年、慶長4~6(1599~1601)年に内惣構と同時に建設されたとの指摘もある。本多町3丁目から香林坊を通り長町の鞍月用水に至り、同用水と共に浅野川まで、約2.8kmにおよぶ。城側に土居を盛り、竹藪などの緑地帯を設けていた。



香林坊2丁目街園

5 東内惣構跡

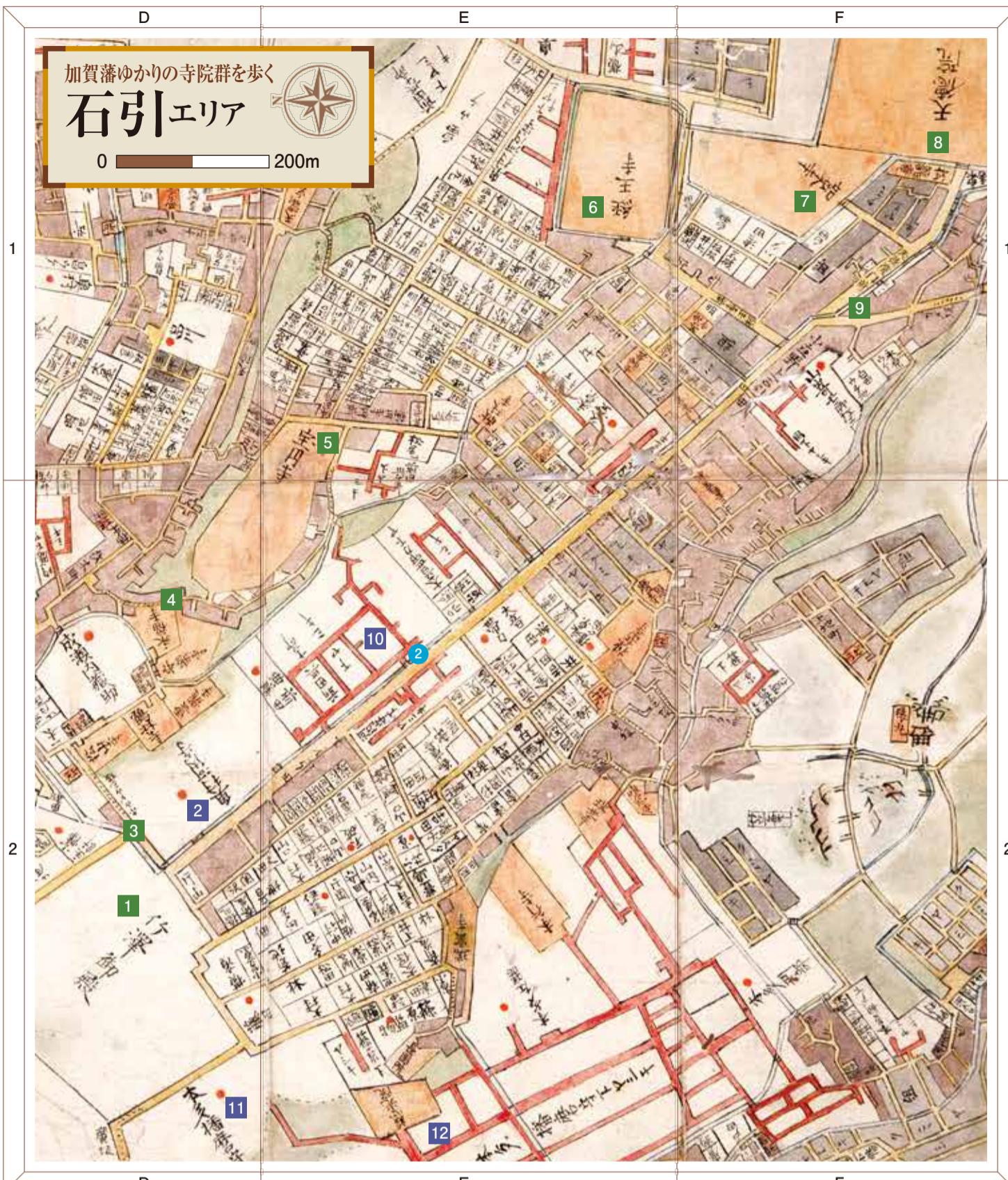
慶長4(1599)年、前田家が徳川家康に謀反の疑いをかけられた際、客将高山右近に命じて掘らせたと伝えられる城下町東側の防御ライン。小尻谷坂付近から始まり橋場町を経て浅野川まで、約1.3kmにおよぶ。城側に土居を盛り、竹藪などの緑地帯を設けていた。



6 東外惣構跡



これまで慶長15(1610)年に篠原出羽守孝によって造られたとされてきたが、近年、慶長4~6(1599~1601)年に内惣構と同時に建設されたとの指摘もある。八坂から材木町を経て浅野川まで、約1.4kmにおよぶ。城側に土居を盛り、竹藪などの緑地帯を設けていた。



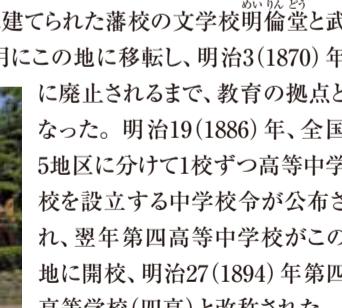
1 尾山神社(金沢城金谷出丸跡地) ☎076-231-7210(尾山神社社務所)
【 MAP 長町C-3】

藩主らの隠居所などが置かれた金沢城金谷出丸跡に、旧加賀藩士らが明治6(1873)年に建てた神社。卯辰八幡宮に祀られていた藩祖前田利家の御神靈を遷座し、祭神は前田利家と夫人まつである。明治8(1875)年建立の3層アーチ型楼門の神門は国指定重要文化財。



2 石川四高記念文化交流館(葛巻)(石川四高記念文化交流館事務所)
【 MAP 長町D-1】

寛政4(1792)年に現在の兼六園に建てられた藩校の文学校明倫堂と武学校経武館が、文政5(1822)年3月にこの地に移転し、明治3(1870)年に廃止されるまで、教育の拠点となつた。明治19(1886)年、全国5地区に分けて1校ずつ高等中学校を設立する中学校令が公布され、翌年第四高等中学校がこの地に開校、明治27(1894)年第四高等学校(四高)と改称された。



3 金沢市足軽資料館(藤掛)(金沢市足軽資料館事務所)
【 MAP 長町C-3】

加賀藩の足軽であった高西家と清水家の2棟を移築保存展示している。加賀藩の足軽屋敷は一戸建てで、屋敷の周りには生垣を回し、内側に植木が施されていたことから、その様子が再現されている。高西家の足軽屋敷は、加賀藩の足軽飛脚の屋敷地であった旧早道町(現・金沢市菊川2丁目)に残され、平成6(1994)年まで住居として使用されていた。清水家の足軽屋敷も、高西家と同じく旧早道町(現・金沢市幸町)に残されており、明治時代以降も代々子孫が受け継ぎ、平成2(1990)年まで住み続けられていた。



4 中央小学校(村井又兵衛) 【 MAP 長町C-3】

加賀藩年寄役村井家(加賀八家1万6500余石)の屋敷跡地。初代又兵衛長頼は天文12(1543)年尾張国荒子村に生まれ、12歳で藩祖前田利家の兄利久に仕えたが、翌年から利家に従い、数々の戦役に出陣し、天正19(1591)年従五位下豊後守に叙任し、慶長4(1599)年利家没後その夫人芳春院が江戸へ人質として赴く時、これに従った。子孫、代々年寄役として藩に仕え、前田家創業時以来の功臣の家柄である。

5 金沢市文化ホール(前田主税・今枝内記) 【 MAP 長町C-3】

前田主税家(2450石)、今枝家(1万4000石)はいずれも人持組に列する藩士。今枝家は人持組の中では最高禄高の家柄であり、美濃国の出身で、稻葉通朝、織田信雄、羽柴秀吉、羽柴秀次に仕えた。2代前田利長に招かれ、代々家老職を務めた。また、今枝近義は5代前田綱紀の傅役も務め、歴代藩主の中でも名君と言われた綱紀を教育した功績は大きい。

6 玉川公園・三谷産業(長九郎左エ門) 【 MAP 長町C-3】

加賀藩年寄役長家(加賀八家3万3000石)の屋敷跡地。長家の遠祖は源頼朝の御家人長谷部信連で、代々能登守護畠山氏に仕えた。天正5(1577)年上杉謙信が能登に侵攻、長一族は殺害されたが、一人生き残った連龍は織田信長を頼り、同8(1580)年信長より鹿島半郡を与えられた。翌年、前田利家が能登に入国すると、その与力となつた。以後、代々前田家に仕えた。

1 ~ 6まで、およそ2.3km

7 野村家 【 MAP 長町D-3】

8 高田家 【 MAP 長町C-3】

9 松ヶ枝緑地(中川式部) 【 MAP 長町B-3】

10 犀川神社(宝久寺) 【 MAP 長町D-4】

1 兼六園(竹澤御殿)

☎076-234-3800(金沢城・兼六園管理事務所)
【 MAP 石引D-2】

5代前田綱紀が延宝4(1676)年に金沢城の外庭として蓮池庭を作ることに始まる。その後、12代齐広が文政5(1822)年、隠居所として竹澤御殿を築造した際、奥州白河藩主の松平定信に「兼六園」の揮毫を依頼した。13代齐泰は齐広の死後、竹澤御殿を取り壊し、霞ヶ池を掘り、崇螺山を造るなどして、庭を拡張・整備し、ほぼ現在の回遊林泉式庭園の形となつた。



2 金沢医療センター(奥村河内守)

【 MAP 石引D-2】

加賀藩年寄役奥村宗家(加賀八家1万7000石)の屋敷跡地。奥村宗家の祖、奥村永福は尾張国荒子で前田利家の父利春、兄利久に仕え、のち前田利家に仕え、伊予守と名乗つた。代々年寄役として藩に仕え、前田家創業時以来の功臣の家柄である。屋敷は初め、金沢城内にあったが、後に、この地に移転し、明治を迎えた。明治以降は陸軍衛戌病院、国立金沢病院を経て現在に至る。

3 八坂(ホウドウジ坂)

【 MAP 石引D-2】

昔、付近の木こりが小立野に通う坂が八つあったことから、またはたくさんあったことから、八坂という名がついた。宝幢寺があつたことから宝幢寺坂とも呼ばれた。また、八家奥村家初代伊予守屋敷の横の坂であることから、伊予殿坂とも呼ばれた。



4 木曾坂

【 MAP 石引D-2】

宝円寺の裏門にある坂なので、裏門坂とも呼ばれる。木曾の山中のような幽邃な所なのでこの名がついたと伝えられる。

5 護国山宝円寺

☎076-231-6050(宝円寺寺務所)
【 MAP 石引E-1】

曹洞宗の寺院。天正11(1583)年加賀藩祖前田利家が創建した、前田家の菩提寺。越前府中(現・福井県越前市)に利家が入部したとき大透圭徐和尚に帰依して、同9(1581)年能登に入国後、和尚を迎へ七尾宝円寺(現・長齋寺)を開山、のち金沢に移つた際本寺を開山した。利家と徳川家康が伏見で会見した際、死を覚悟して自画像と髪を埋めた場所と伝えられる御影堂と御髪堂がある。



6 寿福山経王寺

☎076-221-4873(経王寺寺務所)
【 MAP 石引E-1】

日蓮宗の寺院。慶長6(1601)年3代前田利常の生母である寿福院の実家の菩提寺である、越前府中(現・福井県越前市)の経王寺より日護上人を2世として招いて住持とした。寛永8(1631)年江戸で没した寿福院の葬儀が行われたが、その直後の金沢大火で延焼し、正保4(1647)年寿福院の17回忌に利常によって再建された。

7 龍宝山如来寺

【 MAP 石引F-1】

浄土宗の寺院。天正年間(1573~92)に越中増山(現・富山县砺波市)に創建され、のち越中高岡を経て金沢の卯辰山麓に移り、寛文2(1662)年現在地に移転した。徳川家康をはじめ、秀忠・家宣・家継・家重などの徳川家の位牌が安置されている。



8 金龍山天徳院

☎076-231-4484(天徳院寺務所)
【 MAP 石引F-1】

曹洞宗の寺院。3代前田利常夫人の珠姫(2代將軍徳川秀忠の娘)の菩提寺として、元和9(1623)年に建立され、夫人の法号から天徳院と名付けられた。現在の境内地はかなり縮小されているが、山門(県指定有形文化財)などの風格には当時の様子がしのばれる。

1 ~ 8まで、およそ2.8km(階段およそ250段あり)

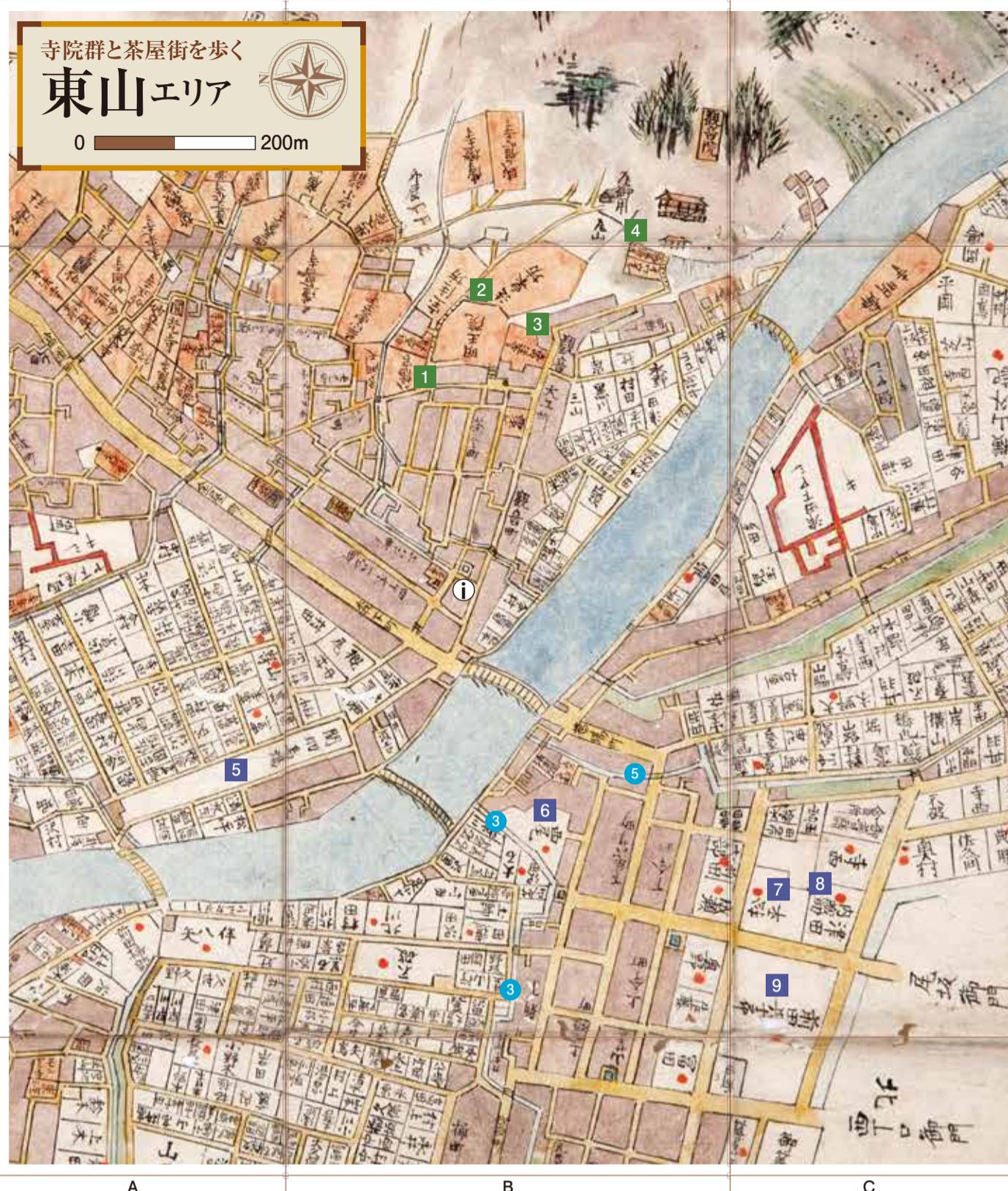
9 下馬地蔵

【 MAP 石引F-1】

10 紫錦台中学校(前田典膳下ヤシキ) 【 MAP 石引E-2】

11 石川県立美術館・石川県立歴史博物館(本多播磨守下ヤシキ・本多左膳・本多刑部) 【 MAP 石引D-2】

12 本多町・鈴木大拙館(本多播磨守下ヤシキ・本多左膳・本多刑部) 【 MAP 石引E-2】



1 宇多須神社(八幡宮)

2代前田利長が慶長4(1599)年藩祖利家の神靈を祀るために建立したが、神として公然と祀ることをばかり、越中守山(現・高岡市)から物部八幡宮、越中阿尾(現・氷見市)の榎葉神明宮を勧請して、金沢城の鬼門の守りとした。明治6(1873)年、利家の神靈が尾山神社に遷座されたが、氏子に守られ卯辰山の古名にちなみ宇多須神社となった。平成16(2004)年、尾山神社の分靈を受け、再び利家の神靈も祀られている。

2 宝泉寺(法泉坊)

剣術の守護である摩利支天を本尊とする。藩祖前田利家は兜に摩利支天をしのばせ、戦いに臨んだと伝えられる。泉鏡花の小説の題材になった五本松があり、そこからは金沢市街地を一望することができる。

3 七稻地蔵

浄土宗寿経寺の門前にある七軀の地蔵尊。安政5(1858)年6月から3ヶ月間冷雨が続き大飢饉となって米価が高騰、7月11・12日の夜、民衆約2000人が卯辰山に登り、金沢城に向かって大声で訴えた。金沢城下始まって以来の大事件で、「安政の泣き一揆」と呼ばれている。その首謀者7人が斬首あるいは獄死し、その冥福を祈った地蔵である。

4 観音院

はじめ石浦村(現・本多町)にあったが、慶長6(1601)年卯辰山に移転したと伝えられる。元和2(1616)年3代前田利常夫人珠姫の発願で現在地に造営された。以後、藩主前田家の子女は、代々産土神として参詣するのを常とした。旧暦7月9日には藩政期以来の行事「四万六千日」が今も行われ、境内で買ったトウモロコシを軒先につるすと室内安全・商売繁盛などの功德があると伝えられる。また、藩政期には神事能が催されていた。

5 関助馬場石碑(関助馬場)

3代前田利常のころ、御歩組博労支配兼馬具支配の佐賀関助(100石)が、荒廃していた馬場を再興したことから、この名がついた。この付近一帯の町名は古くは「馬場」であった。

— 1 ~ 5まで、およそ1.6km(階段およそ300段あり) —

- 6 久保市乙剣宮・恵寿金沢病院(西尾)
【MAP 東山B-2】
- 7 NHK金沢放送局(松平)
【MAP 東山C-2】
- 8 金沢健康プラザ大手町・金沢市医師会館(津田内蔵助)
【MAP 東山C-2】
- 9 KKRホテル金沢・他(前田与十郎)
【MAP 東山C-2】

